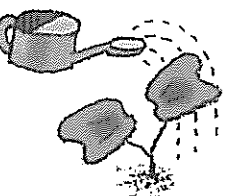


未来を生き抜く子を育てる

第1回

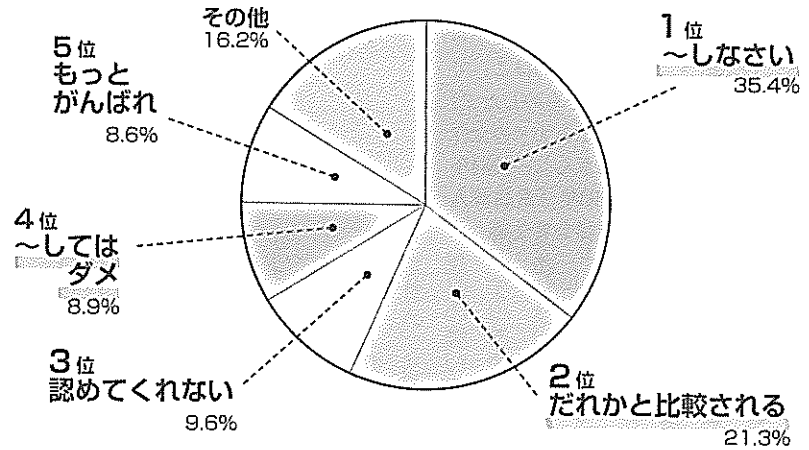
子どもの

やる気をなくすツッポロの言葉がけ



やる気に関するアンケート

中学3年生に  
ぎぎました



15歳に聞いた!

やる気に関するアンケート

「子どものやる気のスイッチはいつ入る?」というテーマで、保護者のかたがたにお話をする機会があります。その際、私の経験談だけではなく、子どもたちの本音を知ってもらおうと、毎年、本校の中学3年生に協力してもらっている「やる気に関するアンケート」の結果を紹介しています。

たとえば、「親に言われて、やる気がなくなった言葉は?」という質問に対する回答は…(上図)。

これは昨年のデータですが、毎年上位は不動です。

つい出てきたかっ

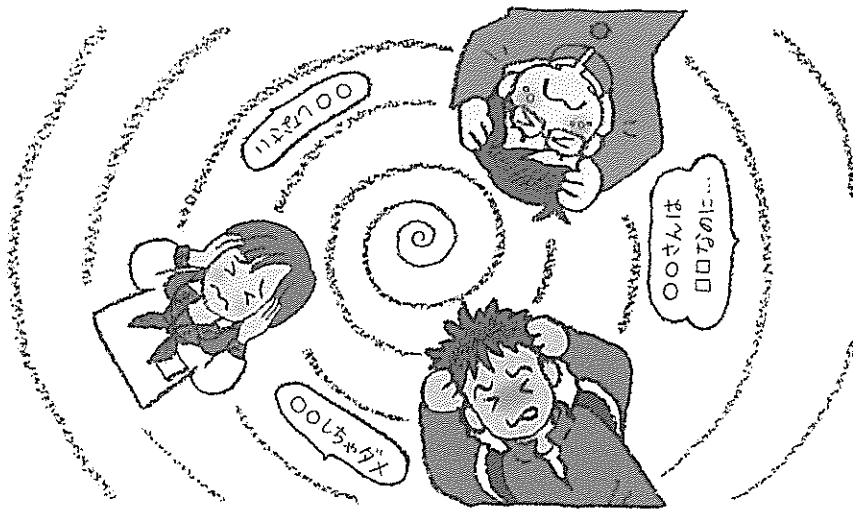
「しなさい」「しなさい」「早くしなさい」という《命令》です。

「疲れて帰ったとき、しなさい」と言われるイメージです。

「自分でやるべきことがわかっていっやうと決めていけるのに、『早くしなさい』と言われる、あーあ」という気持ちになる。

と書いている子どもいました。

また、「しなさいはダメ」という《禁止》の言葉もやる気を失わせます。「やるな」と言われると反発したくなるのがこの年ごろ。小学校の低学年でも同



じでしよう。

《比較》も子どもたちは嫌います。

「〇〇さんでは、テレビなんか見ないから」

「〇〇ちゃんは勉強しているのに」

なんて言われると、自分を否定された気分になるでしょう。なかには人と比較されることで奮起する子もいますが、卒業生を見ているかぎり、比較は不幸の種になっていることが多いようです。

このように、親がよかれと思ってしていた言動が、子どものやる気をそいでいたとしたら、とても悲しいことですね。

「子どもが話を聞いてくれない」「最近は何を言っても反発する」

「うちの子はまったくやる気がなくて」

と悩む親御さんがいます。

ところが、子どもたちに話を聞くと、「親がちゃんと話を聞いてくれない」「説教ばかりでわかってくれない」「親の言葉でやる気がなくなる」と、正反対のことを口にすることがあります。

30年間の教員生活を通じて、親の愛情が伝わらないのはもったいない、と思わされる場面は少なくありません。そこで次号からは、家庭ですぐできる親子のコミュニケーションの工夫についてご紹介いたします。



DATE

品川女子学院 校長

漆 紫穂子

●うるししほこ●

1989年に品川女子学院に国語の教員として着任。2006年より同校の6代目校長。人生をみずからの意志でつくれる子どもの育成にあたっている。著書に『伸びる子の育て方』(ダイヤモンド社)などがある。

(イラスト・鳥田もす)